No.112
令和５年　冬

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

石川県七尾美術館だより

展覧会情報

japan様々な漆の表情
賑わいの江戸絵画

12月17日(土)～令和5年2月12日(日)【開催中】

平成7年（1995）、400点に満たない所蔵品でスタートした当館。その後の作品収集事業により、現在その数は800点を超えました。これら所蔵品は、主に「池田コレクション」と「能登ゆかりの美術工芸品」に大別され、ジャンルは絵画・工芸・彫刻・書・写真など、時代も中世から現代までと多岐にわたっています。これまでの作品寄附者や寄託者の皆さまには、改めて心よりお礼申し上げます。

さて、当館ではこれらの作品を多くの人にご鑑賞いただくため、年に数回テーマを変えながら紹介をしております。本展もその一環で、今回は「japan様々な漆の表情」「賑わいの江戸絵画」の2テーマで計55点を紹介します。

「池田コレクション」とは、七尾市出身で岐阜県大垣市を拠点に活躍した実業家・池田文夫氏（1907～87）が生前に蒐集した美術工芸品で、当館所蔵品の中核を成します。ご遺族による七尾市への数回にわたるご寄附により、現在その点数は289点に及んでいます。

「japan様々な漆の表情」（第1展示室）

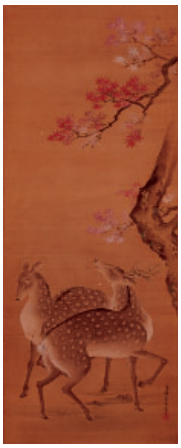
縄文の時代から日用品として多く生産されてきた漆器類。漆は英語で「japan」「Japanese lacquer」とも呼ばれ、江戸時代には輸出が盛んとなり、日本を代表する美術工芸品にも多く用いられました。

ここでは、「池田コレクション」を中心に、中世に繁栄した紀伊根来寺山内で製作され、僧侶たちが日常品や仏具として使用したことがその名の由来とされる、〝用の美〟の代表格「根来」や、蒔絵、沈金、堆漆（ついしつ）などの技法を用いた、美と技が冴える人間国宝の作品まで、様々な漆芸作品など37点をお楽しみください。

「賑わいの江戸絵画」（第2展示室）

江戸時代の絵画は、狩野派や琳派はもとより、京都画壇の活躍、中国絵画に影響を受けた南画や通好みの書画の流布、さらには浮世絵の登場により大いに賑わいを見せました。

ここでは、能登七尾に生まれ、桃山時代に京都で活躍した長谷川等伯の流れを汲む長谷川派や、加賀ゆかりの狩野派の作品に、肉筆浮世絵なども含めた江戸絵画18点をご覧ください。なお、長谷川信春（等伯）筆「陳希夷睡図」も特別展示しています。



中段上：「根来春日卓」（池田コレクション）／中段下：「夏之漁港」木谷信熾／下段右：「秋山竟句図」円山応挙（池田コレクション）／下段左「紅葉に双鹿図」（部分）佐々木泉玄　個人蔵

◇共通観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

愛しき木々　彫刻家・田中太郎のあゆみ

令和5年2月25日(土)～4月23日(日)

「愛しき木々」（第1展示室）

国土の2／3が森林とされる日本。私たちにとって、「木」はとても身近な存在といえます。

桜や梅、紅葉といった木々を季節の折々に愛でたり、由緒ある木を「御神木」として大切に守ったり、「松竹梅」のように、樹木の性質に着目し、そこにおめでたい意味を見出したりと、木は私たちの生活を彩る重要な役割を果たしています。

また、私たちは入手の容易さや豊富さ、そして加工のしやすさから、木を使って住居や家具といった大型ものから、器や箸などの日用品まで様々なものを制作してきました。そして、こうした木を加工する技術は各地で発展し、その土地ならではの伝統工芸を生みだしました。

本テーマでは所蔵品などから、「木」を題材・素材とした絵画や木工芸など約20点を紹介。私たちの暮らしの中に根付く「木」の魅力に親しんでください。

「冬林」曲子光男

「波に千鳥・老松図衝立」
吉田一雋（池田コレクション）

「彫刻家・田中太郎のあゆみ」（第2展示室）

七尾駅前に笠を着け、空を見上げる銅像があります。「青雲」と名付けられたこの像が、七尾出身の画家・長谷川等伯の姿であることをご存じの方はおられることでしょう。しかし、この銅像の作者は？と聞かれて即答できる人はそれほど多くないかもしれません。

作者の名前は田中太郎。七尾出身の彫刻家です。田中は明治44年（1911）に生まれ、尋常小学校高等科卒業後、高畠明雲（たかばたけみょうううん）に寺院建築の装飾彫刻を学びます。その後上京し平櫛（ひらくし）田中（でんちゅう）に師事し、昭和11年（1936）「烏」で院展に初入選。終戦後は七尾に戻り制作に専念し、以降院展を中心に活躍したほか、石井鶴三（いしいつるぞう）らと法隆寺金堂雲斗・肘雲木の復元にも従事しました。同33年には千葉県我孫子市に移転し、院展彫塑部解散後は粲々会や太平洋美術会に舞台を移し、平成4年（1992）80歳で亡くなるまで出品し続けました。そして同年、ご遺族より117点が当館に寄附されました（その後さらに追加で5点が寄附）。その作風は写実を基にした具象作品と、不思議な精神性を想わせる抽象作品に大別でき、それぞれに異なる味わいがあります。

当館では過去2回、その名を冠した展覧会を開催してきましたが、今年度は没後30周年にあたる年です。そこで、当館所蔵の作品から約40点を選抜、改めて氏の業績を振り返り、彫刻家としての「歩み」を紹介します。

「K嬢像」田中太郎

「蛍の光」田中太郎

「迦陵頻伽」田中太郎

チケットでご観覧の方先着100名様に『彫刻家・田中太郎 作品選集』をプレゼントいたします。

◇共通観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

2022 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 開催報告

11月3日（木・祝）から12月11日（日）まで開催しました「2022イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」、今年も無事に39日間の会期を終えることができ、会期中は計4000人を超えるお客様にご来場いただきました。市内や中能登町のこども園・小学校の団体鑑賞も多く、子どもたちはそれぞれお気に入りの絵を見つけていたようです。

初日には3年ぶりに開会式を行い、七尾中学校美術部の生徒さんにご参加いただきました。関連イベントの「かんたん絵本を作ろうよ！」では参加した子どもたちの独創性に目を見張りました。「また来年も参加したい」というお子さんもいて、励みになりました。「のまりんの紙芝居劇場」と「おはなし劇場」では午前中を中心に多くの方にご来場いただきました。演者と子どもたちとのレスポンスが楽しく、あっという間に時間がたってしまいました。各イベントにご協力くださった「絵本の会　もこもこ」の皆さま、野間成之さま、「NPO法人　ぽっかぽか」の皆さま、本当にありがとうございました。

かんたん絵本を作ろうよ！

のまりんの紙芝居劇場

おなはし劇場

さて、この「ボローニャ展」は今年で当館での開催が25回目となりました。これだけ長く続くと子どもの頃に来たことのある方が大人になり、自分の子どもを連れて来たといった嬉しいお声をいただくことがあります。七尾という決して大きくない街で、これだけ国際色豊かな作品に出会うことができる、その意義を改めて考えながら、長く愛されてきたこの展覧会をさらに続けていきたいと考えております。今後も皆さま方のご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

第23回「友の会鑑賞の旅」報告

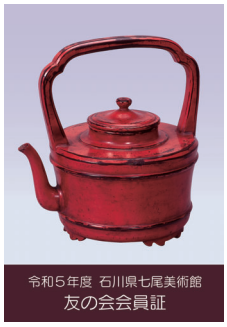
11月8日（火）、友の会会員さま20名と当館職員2名で、「鑑賞の旅」を実施しました。行先は鑑賞の旅では初訪問となる「石川県立図書館」と「国立工芸館」の2箇所。コロナ禍のため、昨年に引き続き石川県内のバス旅行、さらには半日の旅行となり、募集前は人が集まるか不安もありましたが、蓋を開けると申し込みが多く、驚きました。

石川県立図書館には各所にさまざまな仕掛けが施されていて、利用者の「読む」「学ぶ」などを刺激する工夫がされていました。一方、国立工芸館では「ジャンルレス工芸展」を鑑賞。諸事情により、鑑賞前の特別レクチャーは中止となってしまいましたが、デザイン性の高いやきものや、まるで立体彫刻のような作品など、その技術力の高さと「工芸」が持つ可能性を感じられました。

雨に降られることもありましたが、無事に行程を終えることができました。見学先でご配慮いただいた皆さま、ご参加の皆さまに心よりお礼申し上げます。

お知らせ

令和５年度石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内



「根来湯桶」（池田コレクション）

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。
現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込みください。
お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意ください。

●入会手続き

受付開始…３月１日（水）から【年度会費1,000円】※１
受付場所…①当館受付カウンター　　②郵便振替　※２（郵便振替用紙をご利用ください）

※１　会員証は美術館だより第113号（春号・令和５年４月１日発行予定）と一緒にお送りします。
※２　郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別（更新・新規・元会員）・郵便番号・住所・電話番号・氏名》をご記入のうえ、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出しください。払込手数料は申込者負担となります。
【郵便振替口座番号：００７１０－０－５０７９５　加入者名：石川県七尾美術館友の会】

●友の会特典

1「美術館だより」をお送りします。（年度内４回発行）
2 当館及び石川県能登島ガラス美術館主催の展覧会の観覧料が割引になります。（会員本人と同伴者２名まで）
3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。（会員本人のみ）
4 当館主催特別企画展の開会式・内覧会（一部除く）にご招待します。（無料）
5 販売グッズが割引になります。（一部除く）
6 喫茶室利用代金が10％割引になります。（10円未満切捨）
7 研修旅行や美術講座に参加できます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、特典の変更や中止となる場合があります。
※一旦納入された会費はお返しできませんのでご了承ください。

貸館催し物案内

市民ギャラリー

◆小学校水墨画作品展（冬の部）
～我ら等伯の末裔なり～
1月6日（金）～1月31日（火）
最終日は15時まで
主　催　七尾市教育委員会
連絡先　☎０７６７（53）５０９０

アートホール

◆竹本由起子・山田小津紀門下生
第14回ピアノ発表会
3月21日（火・祝）　開演は13時
主　催　竹本由起子・山田小津紀門下生
連絡先　☎０７６７（52）７１７２（竹本）

所蔵品紹介

「彫刻家・田中太郎のあゆみ」出品作品より

「母子群像」　田中太郎　昭和60年（１９８５）

本作は師・平櫛田中から与えられた原木を使い、夫人と孫たちをモデルに制作したものです。師の期待に応えねばという思い、そして田中が生涯をとおして向けてきた家族へのあたたかな眼差しが感じられます。

展覧会予告

長谷川等伯展

4月29日(土・祝)～5月28日(日)

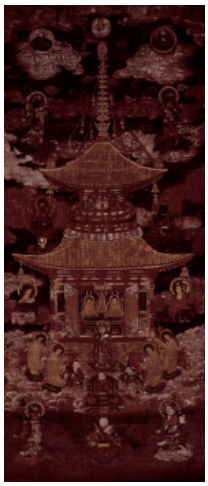
会期中無休

「令和」の元号となり早くも5年目。はたして新しい年・令和5年は、どのような1年になるのでしょうか。

石川県では今年10月に、文化のビックイベント「第38回国民文化祭」が開催されます。題して「いしかわ百万石文化祭２０２３」。すでにプレイベントも「花盛り」ですので、ご存じの方も多いことでしょう。

従って今年は、ことに「文化」が注目されるはず。それだけに当館も「気合い」を込めた展覧会や企画を、いっそう「気をひきしめて」臨みたいところです。

そのスタートを飾る春の特別展が、当館恒例の「長谷川等伯展」です。平成8年より欠かさず開催し続けた同展も、今回で28回目を迎えるに至りました。



「宝塔絵曼荼羅図」
長谷川宗清（道浄）筆
氷見市・蓮乗寺蔵
氷見市指定文化財

今回は、左記3テーマからなる計27点の展示を予定しております。

テーマ1 〝能登の長谷川派〟…等伯誕生時、能登国七尾で染物業と絵仏師を生業としていた長谷川家。本テーマでは等伯を含む、能登ゆかりの絵師4名の仏画などを展示します。

テーマ2 〝等伯の水墨画〟…等伯は「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)を筆頭に、水墨画でも幾多の名作を描きました。ここでは若年期より60歳頃までの水墨画を紹介。

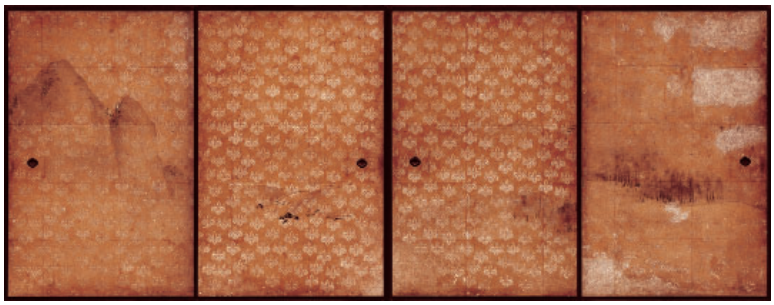
テーマ3 〝等伯の後継者〟…「長谷川派」と呼ばれる一門の絵師たちは、等伯の没後も旺盛な制作活動を続けました。本テーマでは彼らの多彩な作品をご披露します。

なお詳細は次号の「美術館だより」で紹介しますので、こうご期待。

長谷川信春（等伯）筆
石川県指定文化財

「十六羅漢図」（部分）
七尾市・霊泉寺蔵

「松竹図屏風」長谷川等伯筆
当館蔵　石川県指定文化財



「山水図襖」（部分）長谷川等伯筆
京都市・圓徳院蔵　重要文化財

石川県七尾美術館だより　No.112

発行日：令和５年１月１日
発行者：公益財団法人七尾美術財団
〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目１番地
TEL.0767-53-1500　FAX.0767-53-6262
https://nanao-art-museum.jp

表紙

※この画像は全体画像。

「蝦蟇仙人図」（部分）長谷川雪嶺筆

江戸時代中期（18世紀）制作　個人蔵

本図は、腰に薬草を巻いた蝦蟇仙人を描く。仙人の特異な風貌と、頭にしがみついた蝦蟇との対比がなんともユーモラスです。画面左上部には「雪舟画家十三世長谷川法橋雪嶺筆」の落款が確認されます。雪嶺は長谷川等伯４男の長谷川左近を師としており、足を曲げたこのポーズは、等伯や左近も描いています。